

竹田市地方創生 TOP 総合戦略 各種意見要約

■地域活性化・地域住民生活緊急支援交付金（地方創生先行型）に対する意見

- 1.竹田市総合戦略策定事業
 - ・特になし
- 2.道の駅機能拠点強化事業
 - ・無線LANの整備、及び駐車場も広くなり利便性が上がった。
- 3.宿泊施設・観光施設等における無料公衆無線LANの設置事業
 - ・インバウンド受入には必要不可欠。今後も設置個所の増を望む。
- 4.地域における保育環境の改善事業
 - ・アンケート結果については高い数値と言える。15%の内容把握が必要。
- 5.移住者居住支援事業
 - ・空き家の登録が積極的にできる環境づくりが必要。
- 6.おおいた子育てホットクーポン活用事業
 - ・他の自治体に遅れることなく子育ての支援充実を望む。
- 7.食品産業地域連携推進事業
 - ・事業完了後間もないことから、評価は難しい。今後の事業実績をみて判断。
- 8.農村回帰移住・定住支援事業
 - ・移住定住の推進をさらに望む。
- 9.国民保養温泉地再生プロジェクト事業
 - ・竹田市の資源である温泉を活用した地域活性化を期待する。
- 10.新たな戦略的観光コンテンツの磨き上げ事業
 - ・登山バスは新たな登山ルートとして竹田市を宣伝するコンテンツとして更なる情報発信が必要。
11. 世界に冠たる日本の温泉資源活用による「国民の健康づくり」と予防医療の増進」「新たな観光戦略」事業～日本初の『温泉療養保健制度』の実績を生かして～
 - ・今後の事業展開を見て判断。

■竹田市地方創生 TOP 総合戦略取組実績及び今後の計画に対する意見

<委員>

- ・若い人たちと昔から住んでいる年配の方との交流の場、話し合いというのがあるか
- ・57年の水害の時に自粛したお祭りを盛り上げようと青年団<えびす会>が立ち上がり、西宮神社で9月にお祭りがあるが、土曜日の夜に玉来の町を知ろうということで皆集まって勉強会をして三年目、もう今年が四回目になる。
- ・玉来の町を今、こうとうさまとそこを拠点とした町をくっつけようという動きがあるが、資金をどうするかということでえびす会はプレゼンテーションで50万くらい獲得してここ2年ぐらい活動しているが資金面がなかなか思うようにいかない。
- ・玉来もシャッター通り。竹田の町、玉来の町が大変過疎化が進んでいるので祭りや、行事での人集めが必要

<事務局>

・若い方々との交流について、最近は少しずつそういうご意見を頂いている。特に地域おこし協力隊が、現在竹田市45名の皆さんが入ってきているのでそういう方々との話し合いなど企画し、新たに移住してきた市民との情報交換も心掛けていきたい。

<事務局>

・街中のなごし祭りに若い人、移住者、協力隊が参加しており、まちづくり会社が街中の空き店舗の家主、地権者と話して、70人、70店舗と話した結果、貸してもいい人が11人いた。
・社会福祉協議会が17地区単位で福祉懇談会をしている。
・久住の白丹の方は、消防団が白丹温泉を改築まで進めてイベントをやろうという動きもでてきた。

<委員>

・荻町は農業後継者もあり、トマトなどで頑張っているのもそうした若い人の支援があるといいと思う。
・保育所、現在保育所があるが、これに合わせて幼稚園をつくり、子育て部門を早い時期に進めていきたいのでその方向も早く決めて早急に保育園と幼稚園を併用した建物をお願いしたい。

<事務局>

・若者の支援ということでは、KONTO21の皆様が去年、婚活の活動をしており市も支援させていただいた。今年も婚活についてはまちづくり会社で実施する計画をたてている。
・新婚の方々にたいしても、助成事業をもう少し増やしていき若い人がどんどん竹田で結婚し、子育てしていけるような環境づくりをしていきたい。

<委員>

・農業において自治会別に、あと10年経ったらどうなるのかということをお話合っている。
・教える農家、プロが元気なときに、そこに研修なり農家に受け入れてもらって就農しそこの農家の人と一緒に農業をやりながら、取得して気に入られればそこの農家を継ぐなり独立してやっていける。
・農地があるからそこに就農してもおそらく農業経営はそんなにあまいものではないので、自分で確立して農業経営ができるとは思えない。
・よそから就農できる人を融資できれば自治会も減らずにすむのではないか。

<事務局>

・第三者継承システムの構築というのが当てはまるが、竹田市に就農していただける方に儲かる品目でないと生計が立たないということで今、トマト学校やピーマンやスイートコーンなどのトレーニングファーム等の展開をしていきたい。
・竹田市が独自で行う第三者継承及び親元になんらかの援助をとということで始めた親元就農交付金を推進していきたい。

<委員>

・竹田市に人を定住させたりIターンUターンさせるにはその人たちが子育てしやすい環境だったり、就職に就いたりという問題がある。

- ・働く場所がなければ帰れない。企業側としてもしっかり受入れる体制をとらなければいけない。
- ・雇える側として少しでも人を雇う余裕ができる環境をつくる補助等があれば雇用を生みやすくなる

<事務局>

- ・新たに企業の制度事業もできてはいるが、商工会議所、商工通しての利用申請がなかなかないということで企業自体の体力が下がってきているのも事実。
- ・農村回帰を進めている中でせつかくこの竹田に暮らしたいという方を一人でも多く受け入れていく場所として地場の商工業の振興ということを竹田市としても取り組んでいきたい。

<委員>

- ・4月から全日空の販売会社の ANA セールスほうからツーリズム協会の方から出向をし、その中で温泉地を利用したヘルスツーリズムの推進という新しい切り口で温泉を利用した商品に取り組んでいる。
- ・全国発売に向けてどう竹田市をブランディングしていくか、久住も含む長湯地区を中心に、どう全国的に認知度を広めて竹田市まで誘客をし、結果お客様が来られて活性化をしていくか、商品化の調整をしている。
- ・岡城などの観光資源や TAO のような文化的な部分をどうやって商品として発信をしていけるのかに注力していきたい。
- ・おもてなし事業、そういったサービスの面でも民間の経験から実施をしていきたい。
- ・観光のお客様が来られた時に看板が老朽化していたり地図が見えにくかったりということがあるので、商工観光課とも共用しながら改善をしていきたい。

<事務局>

- ・岡城というキーワードをうまく使っていただきたい。「岡城」「整備」という言葉を出しながら皆さんにお話しするというところをある程度心掛けています。

<事務局>

- ・岡城を中心とした山城サミットも 10/22、23 にあるので、共に盛り上がって、全国の山城関係者の皆様との交流も楽しんでいければと思っています。

<委員>

- ・竹田市社協は今までデイサービス事業において高齢者に焦点をあてて事業を進めてきたが、今までの行政主体の待つだけのものではなく、住民主体のつくり出すという発想に転換の必要がある。
- ・これからの地域づくりにはそこに住む住民、子供たち、高齢者、障害者を含めたすべての住民の力が必要ということですのですべての世代を取り込んだ動きを対象を広げていくことが重要。
- ・若い世代の方々の意見も取り入れながらまちづくりを進めていきたい。

<事務局>

- ・竹田市でいつまでも高齢者の方が安心して暮らせる支えの場づくり、居場所づくりを目的に行政、福祉課と社会福祉協議会、竹田市活性化促進協議会、地域包括支援センターが連携をして新しい地域推進会議を昨年の4月に立ち上げた。
- ・暮らしのサポートセンター等を平成24年から7箇所にたちあげ、更に竹田市館内17地区社協、で「よっち

はなそう会」という地域の方々で集まり、地域課題や地域での決まり事、地域でできることを切り口に話し合いをしている。

・久住の白丹地域では白丹温泉館を地域の再生、立て直し、地域づくりの拠点として若い人が立ち上がった。こういった事例を好事例として紹介をしながらそれぞれ辰力ある地域づくりに取り組んでいきたい。

<委員>

・特に地域資源を大切にした事業、立案、企画、温泉を利用した健康の増進であるコース。こういった健康の増進をはかりながら誘客して、地域の活力を図っていくという取り組みや、地域の特産品であるサフランであったり、ゴールデンかぼす、椎茸等、これをブランド化して販売の促進を図っていくというような取り組みを県としても応援していきたい。

・また新たに TAO という新しい動きも出てきているので連携してやっていきたい

・せっかく来られた地域おこし協力隊員をいかに今後定住み結びつけていくかということで仕事の確保、雇用の確保という観点からそれぞれの協力隊員にふさわしい、技能が生かせるような職をつくっていくということが非常に大事になるのではないかと

・お客様を呼べるような新たな料理の開発ができて、それもひとつの売りとして PR できたらいいのでは。荻のトマトと藤野屋の卵のオムライスなど。荻の里温泉のオムライスをもっと広められると良い。

<委員>

・若者の力がとても重要になってくるので、若い人たちがいかに地元に着定していくかが一番の問題。

・地域の魅力をどうやって人に伝えていくか、また地元でもう一度新しい魅力を再発見していくのが根本にある課題。

・若者の着定を目的とした「オールおおいたで COC プラス事業」を進めており最終目標が学生の地元着定ということでいかに大分県の魅力を学生に伝えるかといった教育カリキュラム改革を進めている。

・竹田市と商工会議所、金融機関の方も含めて大学と一緒に交流会を開かせただけると産業の活性化にも、将来的には雇用のにもつながっていくのではないかと考えている。

<委員>

・市民との話し合いで出てきた意見を採用したらこれ実は市民発のアイデアだということを PR すれば、意見出すほうもやる気になるのではないかと思う

・農業について就農間もない時に農業ができるのかと思うので、奨励金というのをもらってするなり、農プラスアルファで他の仕事を持たせたいのではないかと

・竹田で農業をしようと思って移住した方が不安なときにプラスアルファで得られる収入があったり、ある程度軌道に乗っても実は現金収入は乏しいと思うのでそこを補えるようなしくみがないか。

・農地を手放そうと考えたときの心理的な壁をうまく解消する方法がないか。

・高齢化が進んで地域交通これから渋滞する恐れがあるので、譲り車線、ポケットみたいなもの整備することによって回避できるのでは。

<委員>

・15歳～64歳、生産年齢人口の確保が大切。

・男女平等社会といいますがそういった取り組みも必要であり、時代は変わってきているので政策自体も変えて

行かないといけないので、私たちも考え方を改めて取り組んでいきたい。

<委員>

- ・施設については充実してきていると思うが、保育園の園長会議で保育士の確保が難しいという意見があった。
- ・募集をかけるが、竹田市に応募する方がほとんど居ない。竹田市独自の補助、支援ということはできないものか。保育をして下さる方についても安心できる取り組みが必要じゃないかと思う。
- ・病児保育についての制度はとてもありがたいが、病児保育の手続きが複雑と聞くので、もう少し改善できないか。欲をいえば病院の近くの医師がいる側で病児保育がしていただければありがたい。